

長崎歴史文化博物館

長崎歴史文化博物館は 2005 年 11 月に開館しました。この博物館は長崎美術館の跡地に建てられました。さらに昔は長崎奉行所の東役所が置かれていたこの場所の歴史は、長崎歴史文化博物館の白漆喰壁が載る堅牢な石垣という伝統的な外観に反映されています。

ポルトガルやスペイン、中国、オランダの船がこぞって来航した長崎は、国際貿易によって小さな集落から大都市へと変貌を遂げました。鎖国（1639–1853）が敷かれていた長年の間、日本にとって出島はヨーロッパとの唯一の接点でした。この博物館では、長崎で交易を行っていた国々の人々や文化が日本にどのような影響を与え、日本からどのような影響を受けたのかを検証しています。

館内の一角には、潜伏キリシタン関連の品々とともに、日本におけるキリスト教の歴史の全体像を詳細に解説したパネルが展示されています。また、別の一角には、かつてこの場所にあった長崎奉行所が忠実に復元されており、白洲での裁判を再現した寸劇も見ることができます。

他の展示では、南蛮貿易（鎖国以前のヨーロッパとの交易）や日本とオランダの関係、中国から受けた影響、そして、19 世紀半ば以降長崎を経由して日本に伝わった電報や写真をはじめとする様々な西洋の知識技術が紹介されています。